

米山奨学生紹介

「研究開発で社会に貢献」

2022-23年度米山奨学生

那日蘇

北海道大学・札幌幌南RC

1. 自己紹介

北海道大学農学院、博士課程三年生の那日蘇と申します。札幌幌南ロータリークラブにお世話になっております。私は中国内モンゴル自治区通遼市生まれです。家族は主に牛と羊を飼っているため、高校卒業までは、放牧の手伝いをよくしていました。大学は実家より1200 km離れたフフホト市（内モンゴル自治区の政府所在地）の農業大学に入学し、農業機械工学を専攻しました。昔から内モンゴルでは留学先に日本を選ぶ人が多く、その理由として、安全で国民の礼儀が正しく、優れた学術環境を有していること。そして、モンゴル語が日本語と文法的に似ている部分が多いため、比較的勉強しやすい事などが挙げられています。私は大学卒業後に来日し、まず東京の日本語学校で日本語を勉強しました。その後、北海道大学の農学院に入学し、現在に至ります。



図1 北大祭—北海道札幌市(2017年6月)

2. 研究内容

自然と調和して暮らす遊牧民は、自然の恵みを求め、家畜の群れを連れて移動し、自然環境や家畜と密接に関わり合いながら生活を送っています。そのため、自然からの豊かな恵みを得ると共に、自然に対して高い意識を有しています。北海道大学に入学後は、農業系廃棄物（リグノセルロースバイオマス）のエネルギー化に関する研究を始めました。具体的には、トウモロコシ茎葉を原料としたメタン発酵システムの開発について、原料の前処理に関する研究を行っております。大学の専攻は農業機械学だったため、現在の研究は私にとって新しい分野でしたが、研究グループの研究テーマに関わる論文の精読から始め、研究に必要とする基礎知識を学習し、それから、学会などに積極的に参加したことに伴い、修士卒業までに国際誌への論文掲載の実績を残しました。博士課程入学後、国内や国際会議での口頭発表などにより、自己を磨いています。

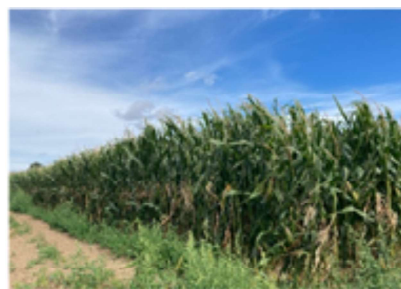


図1 トウモロコシ畑—北大農場(2018年9月)

3. 今後の抱負

私は就職活動を始める際、やりがいや社会貢献度を実感できるような民間企業に入りたいと考えていました。そして、素材メーカー、グローバル展開と専門との関連性を軸に企業研究を始めました。企業研究をしている中、巴川製紙所という会社と出会い、会社の歴史、グローバル展開やこれからのマーケティング戦略などに惹かれ、エントリーをしました。その後、会社説明会や面談などを通じて、石油由来樹脂の使用量を低減し、CO2削減に貢献する環境に優しい製品の開発に取り組んでいる姿に魅力を感じ、第一志望にしました。選考は厳しかったのですが、喜ばしい結果を得ることができました。希望職種の通り、来年4月から研究開発に携わる予定です。

キャリアプランに関しては、まず研究開発職に就き、経験を積み上げたいです。将来的には、専門知識と語学力を結びつけて、技術営業になり、日中両国そして世界との架け橋になるよう、努力して参ります。

2022-23年度米山奨学生

Malva Clara Dahlqvist

北海道大学・新札幌RC

「出会いと自己成長」

はじめまして。スウェーデン出身の北海道大学現代日本学プログラム4年のマルバクララ ダークvistと申します。日本での暮らしは今年でもう5年目になりました。初めて日本に来たのは、高校2年生の時でした。母国のスウェーデンの高校で、仲の良い同級生が全員留学に行くことになったのがきっかけでした。留学先を選ぶ時に、なじみのあるヨーロッパの国や、言葉が話せる英語圏にはしたくありませんでした。その理由は、チャレンジするのが、自分の成長につながるからだという私が大切にしていた価値観でした。



日本にきた当初は、日本語は一切話せず、正直なところ日本のこともあまり詳しくありませんでした。自分の中に日本のイメージがあまりはっきりしていなかったからこそ、高校2年生の時の留学はとても大変でした。言葉も話せなくて、苦労しました。しかし、そのおかげで確かに目標通りに成長ができました。理解できてない文化に接し、自分の中の偏見や思い込みに気づかされ、世界観が一気に広がりました。

そこからスウェーデンへ戻り、高校卒業後のことを考えるようになりました。当時は自分の中に夢と言えるものはありませんでした。しかし、成長し、もっといい人になりたいという意思は強くありました。それに加え、高校生の時の交換留学の経験から自己成長ともう一つもっと大事な価値観が生まれました。それが、異文化に接することにより、人間同士の理解を深めることです。

進学先が決まり、北海道大学に入学しました。そこで、ロータリーのことを初めて知りました。世界平和という目標の元に活動をしていると聞いた時、正直なところびっくりしました。世界平和を耳にすると、あまりにも大きすぎる目標に思えました。驚きましたが、留学生を支えることは、世界平和に近づくことは確かだと思います。異文化に飛び込むことで、誰でも辛い思いをたくさんします。それこそ、米山梅吉氏も、アメリカで差別と向き合い、嫌な思いをされたでしょう。異文化に接し、嫌な思いをしてしまうにも関わらず、他者のいいところにも気付かされ、縁が生まれます。私が考えたその理由が、異なるバックグラウンドの人に出会い、共通の人間性を感じるからです。いいところも、嫌なところも、どれも人間らしさ。それを理解するのが、平和のタネでしょう。その活動を支えているロータリーの考えに心より感謝をしております。

私は今大学の卒業を迎えるところです。この大学4年間で、アルバイトや日本語能力試験の合格など、大学生活での目標をたくさん達成してきました。その一方で、コロナもあり、思い通りできなかったことも多々ありました。ここからは、更なる挑戦を試す自分と向き合いたいと考えております。今年の4月、東京にあるアマゾンの本社に入社することが決まりました。また新たな場所で、出会いと成長を大切に、世界平和という目標を忘れずに頑張っていきます。



この留学を豊かにして下さったロータリーの皆様、ありがとうございます。